

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

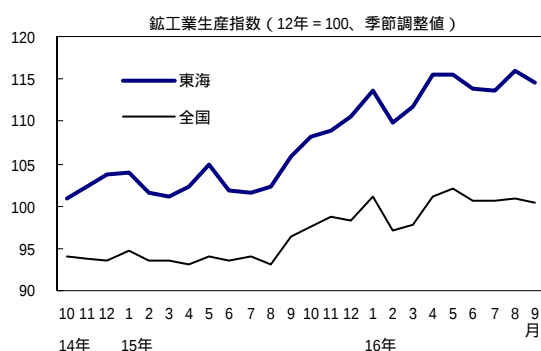
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 8 月）	今回（平成 16 年 11 月）	
個人消費	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい	↓
住宅建設	減少	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

輸送機械は、完成車の国内向けが新車効果により増加し、輸出向けも引き続き好調なことから高水準で推移したものの、自動車部品が高水準ながらも四半期でみると減少したことから、4 四半期ぶりに減少に転じている。一般機械は、金属工作機械が国内外の自動車関連向け、一般機械向けを中心に高水準で推移したことなどから、増加している。電気機械は、制御機器が自動車関連向けを中心に高水準で推移したことなどから、増加している。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に堅調に推移したものの、大型プロジェクトがほぼ終息したことに伴ってセメントが減少したことなどから、減少している。化学は、主に前期に一部生産設備の整備等を行っていた反動により、増加に転じている。



（備考）平成 16 年 9 月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

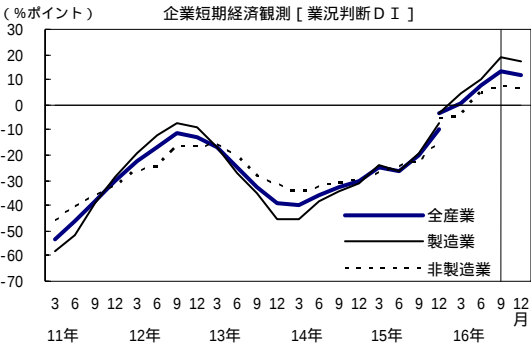
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
輸送機械	33.9	1.8	▲1.1	▲2.5	25.5
一般機械	11.3	3.9	2.4	0.3	7.2
電気機械	7.3	6.3	3.7	▲0.2	1.7
窯業・土石	6.1	▲0.3	▲1.3	1.4	▲3.9
化学	5.4	▲6.0	4.0	3.1	3.0
鉱工業	100.0	3.0	▲0.2	▲1.5	6.3

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

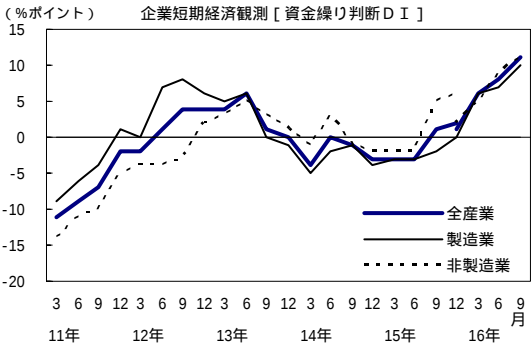
2. 7～9月期は速報値。

3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

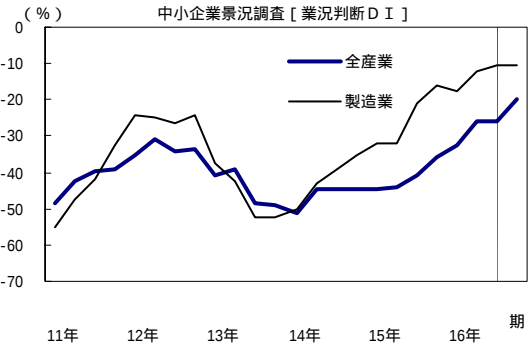
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
中部地区のD I。

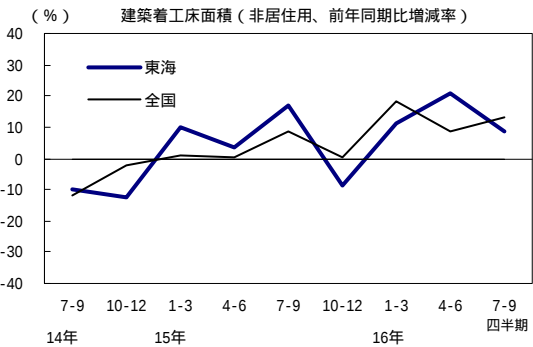
景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]
「原油価格や鋼材価格の高騰に伴い、販売価格への転嫁交渉に時間を取られ、納期交渉が後回しになっているため、生産に影響が出てきている。さらに、新潟県中越地震の影響で、取引先から納期の延期要請も出てきている (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)		
	15年度実績	16年度計画
全産業	▲3.4	10.0 [9.3]
製造業	0.4	15.6 [14.8]
非製造業	▲6.8	4.4 [4.0]

(備考) [] は前回 (6月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

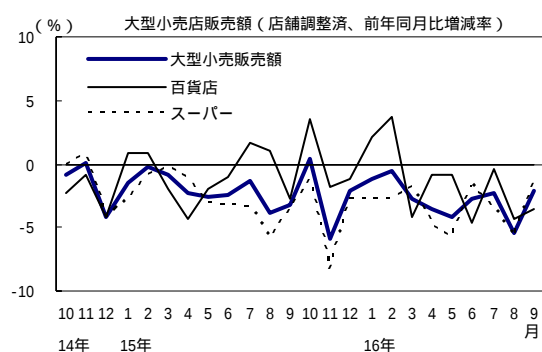
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑の影響から衣料品が5か月ぶりに前年を上回ったものの、飲食料品が振るわなかったことなどから、前年を下回った。8月は、猛暑の影響から、前年を下回った。9月は、台風の襲来や厳しい残暑の影響により、秋物衣料品を中心に不振だったことから、7か月連続して前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、名古屋地区の10月の売上高は、前年同月比で0.1%増となっている。

スーパーは、7月に、衣料品が4か月ぶりに前年を上回ったものの、天候不順により、期間を通じて飲食料品が前年を下回ったことなどから、全体としては22か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「天候不順と台風の影響で野菜、果物など青果物の相場が高騰しており、野菜を使った料理は主婦層から敬遠されている。しかし地元プロ野球チームの優勝セールでは、66円セールなどが客動員に貢献し、売上を戻している(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



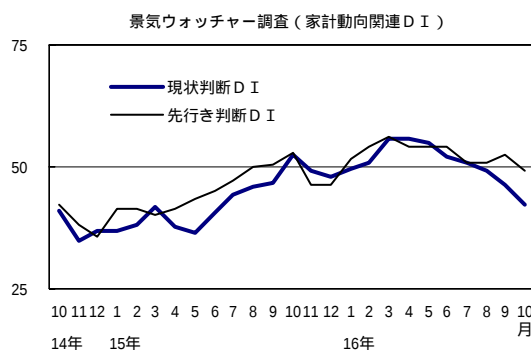
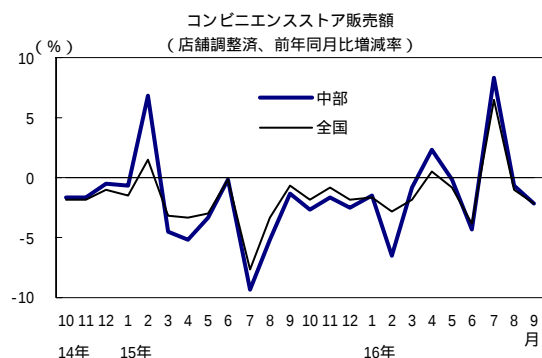
(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲2.5	▲1.5	▲3.4	▲3.2
百貨店	▲0.1	0.3	▲2.1	▲2.4
スーパー	▲4.0	▲2.4	▲4.1	▲3.7
コンビニ	▲2.3	▲3.0	▲0.8	1.7
景気ウォッチャー	49.9	52.1	54.2	48.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。

中部地区の値。

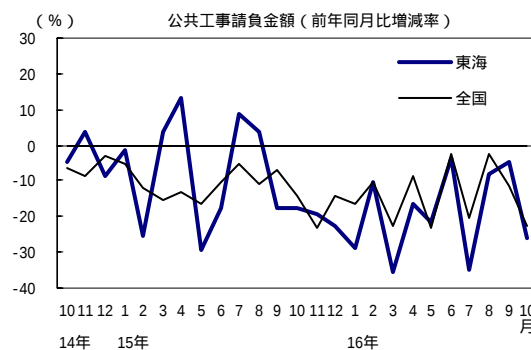
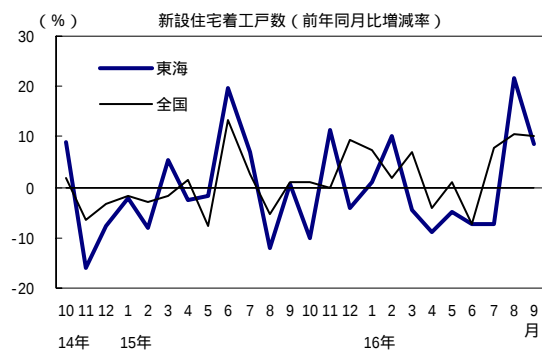
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

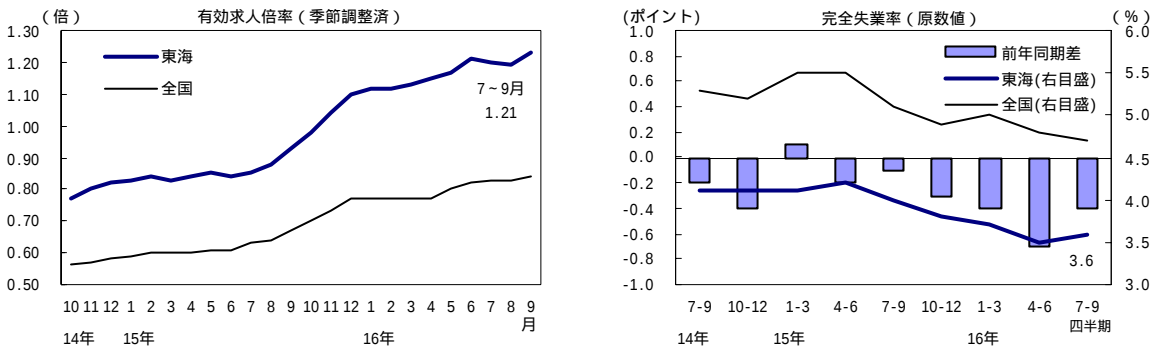
持家、分譲を中心に前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



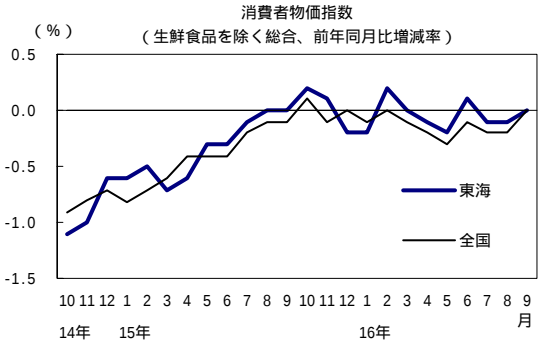
- 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]
「技術系では正社員を募集する傾向にあるが、事務系では非正規雇用が相変わらず多く、雇用のミスマッチは続いている (新聞社 [求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	336	336	283	290	101
(前年比)	▲19.4	▲25.8	▲30.5	▲17.1	▲4.7
負債総額	4,126	1,400	879	1,069	208
(前年比)	225.6	▲12.8	▲20.4	▲33.4	12.8



- 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- 名古屋の地下鉄が環状線として開通し、新線も開通した影響で、昼夜ともに客が減っている (タクシー運転手)。
- <先行き>
- 台風や震災の影響で、建設業者などでは耐震対策工事の受注が増えている。しかしその一方で、設備投資する側では経費が増加している (会計事務所)。

